

サビエル生誕五百年



聖地とレコンキスタ

エルサレム、ローマとともにキリスト教三大聖地のひとつに数えられるのがサンティアゴ・デ・コンポステラ

地図を見るとよくわかるが、そこはスペインの最北西端、もう少し行けば北大西洋である。



歓喜の丘で聖地を指差す
巡礼者のモニュメント

る。

ここでキリストの十二人の弟子の一人、ヤコブの墓が九世紀に発見された。以来、巡礼者が多いとはいえ、エルサレム、ローマに比べ、キリスト教三大聖地と言われるには見劣りするように思えた。

紀元四四年に殉教したといわれるヤコブの墓が、八百年後に星の光に導かれて発見されたというのも伝説の域を出ない。

「そんな所が三大聖地のひとつとは？」と妻に尋ねると、信仰深いのに意外にクールな見方をする妻は「お墓の真偽は別として、何か聖なるものが必要だ

ったのよ」と、よく意味のわからない生返事である。

ところが、この巡礼記を書くためにいろいろ調べると、妻の返事は当たり。見劣りするという疑問も解消したのである。

〈再び、レコンキスタ〉

以前にもレコンキスタ（国土回復運動）については触れたが、紀元七一年、アフリカからジブラルタル海峡を渡って、イスラム勢力がリベリア半島に侵入。わずか三年ぐらいの間に、北の一部を除き、リベリア半島はイスラム勢力下になった。

これに対してイスラム化を免れた北部を中心に九世紀からカトリック勢力が起こした運動がレコンキスタ、国土回復運動である。

つまり、国土回復といっても、イスラム教とキリスト教の戦いであり、スペイン、ポルトガルの国内問題ではなく、ヨーロッパのキリスト教徒全体の問題

でもあった。

聖書に出てくるエフエソ、ガラテヤ、コロサイなどがあるトルコが今は完全なイスラム教国家であることを考えると、もしレコンキスタが成功しなかったら世界の歴史は大きく変わっていただろう。

一四九二年、イスラムの最後の拠点、グラナダのアルハンブラ宮殿が明け渡され、レコンキスタは勝利に終わった。

九世紀に始まったレコンキスタ、時を同じく発見されたヤコブの墓。北スペインにあるこの聖地はレコンキスタの精神的支柱だったのである。こう考えると、サンティアゴが三大聖地と呼ばれるわけがよく理解できる。

〈歓喜の丘〉

約八百キ、徒歩で一月の苦しい巡礼の後、サンティアゴの手前三キ余りの所に「モンテ・ド・ゴソ」(歓喜の丘)と呼ばれる小高い丘がある。

巡礼者はこの丘から前方に聖地サンティア

歓喜の丘からはかすかに
聖地サンティアゴ大聖堂が見えた



ゴ・デ・コンポステラを初めて目にするのである。今、そこには聖地を目指す喜びの二人の巡礼者のモニュメントが建てられている。

この像は、巡礼者の歓喜とともに八百年近く異教徒の支配下にありながら、信仰を守り続けてキリスト教の地を取り返したレコンキスタ、勝利の歓喜にもとれる。

いろいろと想像しながら私も前方の聖地を見たが、楽で便利なバス旅行でこの地を訪れたのでは、本当の歓喜はわいてこない。知識ではなく、自分の体験で訪れてこそ、聖地訪問の意味があるのだと、歓喜の丘の像が私に問いかけているように思えた。

（元山口放送取締役ラジオ局長）